

社会保障委員会 NEWS

発行：社保委員会事務局

■9/8 伊保石健康相談会、吉田北部診療所長参加して12名来場。

8日に伊保石仮設で2回目の健康相談会を開催しました。参加者は、医師は北部診療所の吉田所長と藤原医師の2名、看護師は手術室・3階・健管室から3名、薬局1名、友の会からは佐藤事務局長、つばさ薬局から藤沢事務長が参加しました。今回もみやぎ生協から理事と地域のリーダーさん達が多数参加。賑やかな健康相談会になりました。

今回は12名の入居者の方が来場。藤原医師は、常駐の市保健婦さんと気になるお宅3軒を訪問。

前回血圧190だった、桂島から入居したUさんは、「早速近医受診した。医師からも、受診してよかったですと言われた。薬飲んで落ち着いてきた。助かりました」と。血圧は120台と落ち着いていました。「震災前は、血圧は高くなかったから」と話していました。

相談内容も、「震災で怪我して、夫が寝たきりになった。身障手続きでを教えてください」「夫が要介護5で自宅に手すりをつけたいが、どこに相談すればよいか」「災害支援金の相談は、どこにすればよいか」など、生活面、経済面での相談も増えてきました。相談内容や気になる入居者さんは、市健康課に対応をお願いしました。

また、翌週月曜日の12日から坂病院～北部診療所間の送迎バスが伊保石仮設を回ることもお知らせしたところ、「先日チラシもらって、みんな知ってます。助かります。」と話していました。

＜参加者の感想＞

- ・相談者がとぎれたところで、お茶を飲みながら話が聞けて良かった。「仮設に入居してホッとした所もあるけど、今後の生活を考えるとまだまだ不安です」と話されていました。(看護師)
- ・3軒訪問したが、保険証の手続き中ということで保険証がない方がいた。常駐の保健婦と看護師がいて巡回して状況は把握しているようなので安心だが、他にも手続きされていない方がいないか心配。(保健師)
- ・和気あいあいとしていて、驚いた。仮設住宅に入居している人たちの話を聞いて、不安なことなどわかって良い機会だった。(看護師)
- ・医師がじっくり話を聞いていて、よかった。健康だけでなく、暮らしや介護の問題も抱えていた方が結構いるようです。(薬剤師)

■9/15 多賀城中仮設で初健康相談会

7月末から入居が始まった多賀城5カ所目の仮設である多賀城中学校仮設(50戸)で初めての健康相談会を開催しました。参加者は、医師は山田副院長と阿部医師の2名、看護師は7階・8階から2名。集会室が10畳程度と狭いため、参加スタッフを縮小しての相談会でした。多賀城中仮設は、入居者が50戸のうち半数程度で、普通のご家庭が多いため、ほとんど仕事に出かけているお宅でした。

最初の来場者から、「妻が自宅で寝たきりなので来てくれないか」と依頼があり、山田副院長が看護師さんと訪問。夫は認知症、妻はリュウマチでほとんど動けない状態で、親族もいない2人暮らしのお宅でした。夫が認知症で1人で帰れないため、外出は必ず2人で行っている。病院もいくつか通院していて、夫の運転で妻が道順を指示しながら通っている、という状況でした。妻が精神的にまいっているようで、じっくり傾聴してきました。翌日、市の保健婦に連絡し、こころのケアチームにつなぐように依頼しました。

阿部医師チームも2軒訪問し、お宅に上がってじっくりお話を伺ってきました。

＜参加者の感想＞

- ・初めて仮設訪問をしたが、砂利道で段差があったり、室内の浴室にも段差があったり、仮住まいとはいえ不自由な点がありました。(看護師)
- ・仮設のお部屋は、狭かった。密集してたっているけど、近所との交流がないことがわかった。(看護師)



＜多賀城中集会所＞